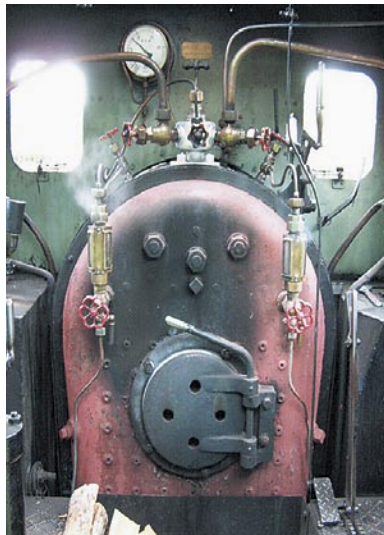




木材を運搬していた当時の雨宮21号



運転室



51) 年、丸瀬布町に正式に譲渡された。鉄道廃止からすでに15年が経過していた。

町は「雨宮21号」を札幌に運んで復元、整備する一方、市街地から9 km離れた同町上武利に森林公園いこいの森を造成し、森林鉄道の走る緑と渓谷のマチをキャッチフレーズに、8の字形の一周軌道を敷設するなど着々と準備を進めた。いこいの森の周辺にはオートキャンプ場や昆虫生態館、郷土資料館なども設置され、温泉施設もできた。

1982(昭和57)年5月1日、「雨宮21号」は、ボーツ

懐かしい汽笛を響かせて走り出した。丸瀬布の人たちはその雄姿に歓声を上げた。

2001(平成13)年元旦、「雨宮21号」は積雪に埋まった森林の中を、白い煙を吐きながら豪快に走り抜けた。「雨宮21号」と「21世紀」の到来を引つけた記念運行に、人々は感激の面持ちだった。

有志の情熱が果たした動態保存

「カンコーの汽車を何とかして残したかった」と述懐するのは丸瀬布町の郷土史研究家、秋葉実さんだ。

秋葉さんが「雨宮21号」のスクラップ処分を知ったのは1956(昭和31)年秋。毎年スキー場の麓で開く有志らの「山賊会」という宴会の席上だった。役場職員から「雨宮21号」は10万円でスクラップになる、と聞かされ、酒の勢いも手伝って有志らが、「俺は2万円出す」

「5千円ならすぐでもいいぞ」と言い出して、あつという間に資金の目算がついた。

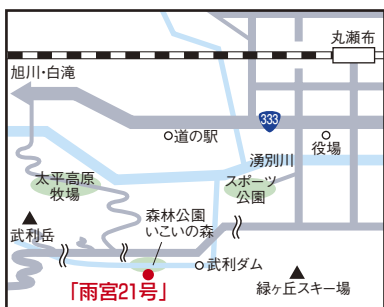
ところが機関車だけ買っても、機関庫もなければ用地もない。秋葉さんは翌朝、町長を訪ねて、「機関車を寄付するから、保存策を考えてほしい」と頼んだ。

町長はその熱い心情にうたれ、「雨宮21号」の譲渡にかけずり回った。秋葉さんは地元民の家々を歩いて署名活動をした。紆余曲折の末、「雨宮21号」の動態保存が決定した。

1982(昭和57)年5月1日、黒い機関車がまるで生き物のように力強く走り出した。「あの日の喜びは、生涯忘れられない」と秋葉さんは語る。

Data

4月末～10月末の土、日、祝日、夏休み期間に運行



●お問い合わせ先
丸瀬布町商工観光課 Tel. 01584-7-2211